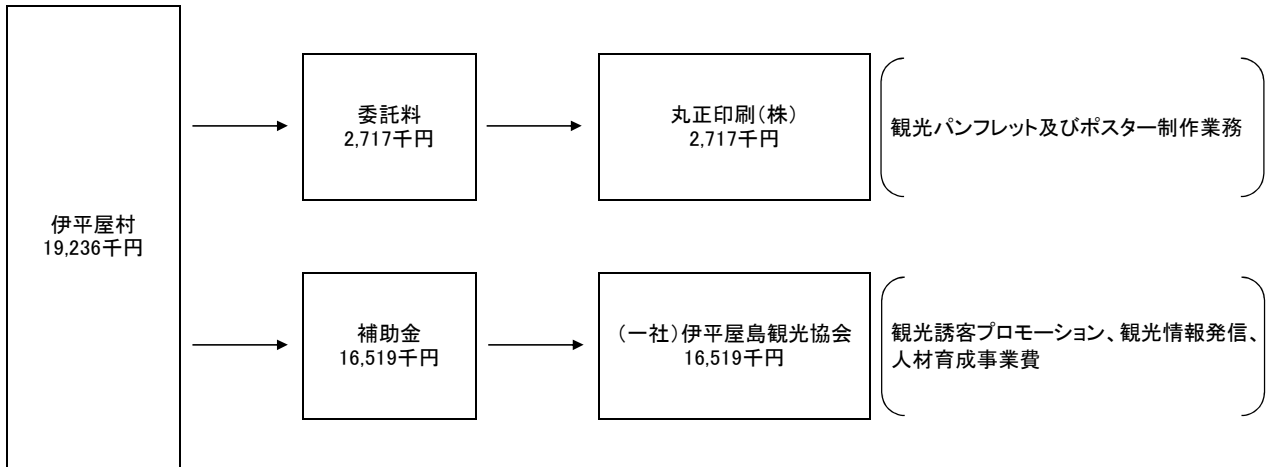


市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	商工観光産業支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	観光交通課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	伊平屋村の持続的な観光振興を図るため、伊平屋島観光協会へ支援(観光誘客プロモーション、観光情報発信、民泊受け入れ支援、商工業と観光業の連携強化等)を行う。また、新たに観光パンフレット及びポスターを制作し、島内外で情報発信することで伊平屋村への誘客に繋げる。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a)当初予算額	15,238	17,192	16,804	15,832	22,382
		(b)予算現額	17,470	17,192	18,804	15,832	22,382
		(c)増減額(b-a)	2,232	0	2,000	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	17,470	17,192	18,804	15,832	22,382
		B.執行済額	16,282	17,192	17,799	15,582	19,236
		うち交付金充当額	13,025	13,753	11,839	12,465	15,389
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	93.2%	100.0%	94.7%	98.4%	85.9%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> 観光協会職員の人件費及び旅費に不用額が生じた。 観光パンフレット及びポスター制作業務において、競争入札により執行残があった。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・参画民家50軒を目標とするべく各地域戸別訪問の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施済	実施済	実施済		
	・参画民家の参入 50軒	目標	(50軒)	(50軒)	(50軒)	()	
		実績	60軒	43軒	45軒		
	・他県PR活動の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施済	実施済	実施済		
	・1団体250名規模の大型の修学旅行を誘致すべく、参画民家50軒を維持できるよ地域(各戸別訪問)を継続的に実施	目標	()	()	()	(50軒)	
		実績				53軒	
・年間受入観光客数延べ800人以上の受入れを目指し他県でのPR活動を実施	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施済		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 高齢化等により年々受入民家の確保には苦慮しているが、継続した戸別訪問の実施により参画民家については53軒と目標を達成することができた。 他県PR活動については、他県修学旅行フェア等への参加によりPR活動の実施を行った。 新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和されたことにより修学旅行の受入れが再開されたため概ね設定した目標は達成できた。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	民泊利用者数 4,431人以上	目標	()	(4,983人以上)	(4,987人以上)	(4,431人以上)	()
		実績		0人	381人	1,252人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 目標設定の見込みが甘く、修学旅行の受入れが7校にとどまったこともあり1,252人となった。 離島体験学習の受入れが3校にとどまったこと、村内イベントの中止等により目標を大きく下回る結果となった。 新たな観光パンフレット及びポスターを制作し、本村の魅力的な観光資源を観光客等にアピールする。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の受入れは徐々に戻りつつあるが、小学生の離島体験学習が以前よりも少なくなっているため目標値に影響している。 ・村内イベントが中止となったことなどにより民泊受入の人数も比例して減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動等も回復傾向にあるので、民泊事業が本格再開した際には役場・観光協会・民泊事業者と連携を図り、観光パンフレットおよびポスター等を活用し積極的に島外へPRするなど受け入れ事前準備や態勢を強化を推進する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き受入民家の掘り起こしとサポートを行い、民泊事業の本格再開へ備える。 ・新たに作成した観光パンフレット及びポスターを活用し、村内外にPRする。 ・観光庁の補助メニューを活用して観光協会が新たな看板メニューとなる体験プログラムを構築した。次年度以降商品化し、民泊事業と連動した取組を推進していく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
19,236	19,236	15,389	3,847	0



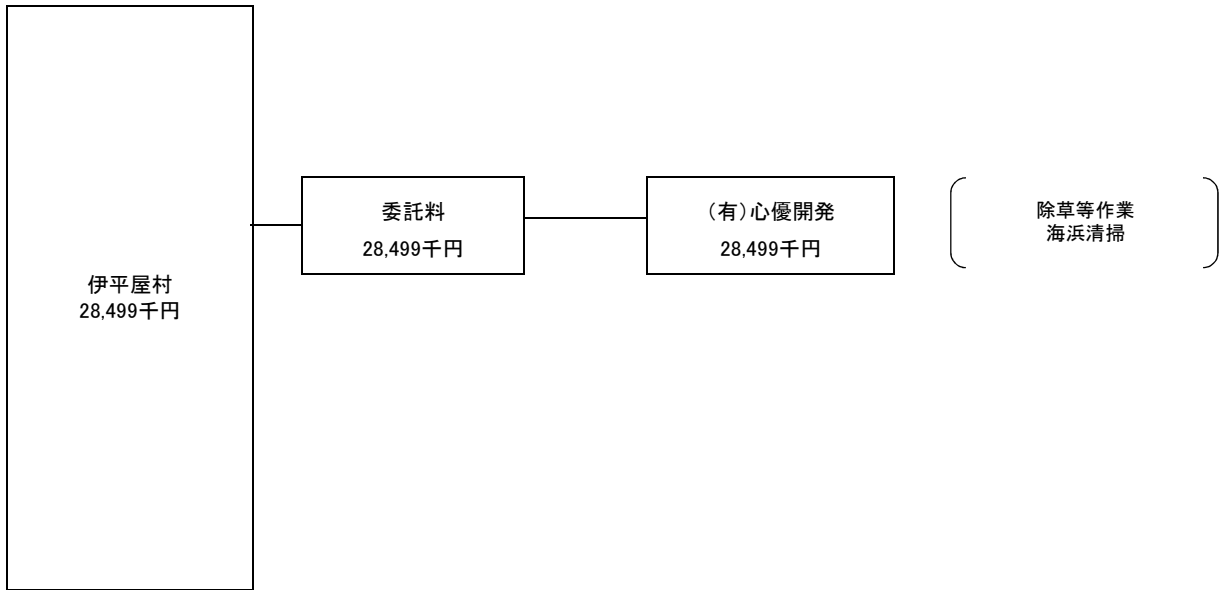
資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料については競争入札にて執行しているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助金については、観光に資する団体であるため、事業内容と一致し適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模は事業完了後に検査を実施し、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○受益者との負担関係は補助金以外にも、予算を充当しており妥当と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光地イメージアップ推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光スポットに向かうアクセス道路や公園など多くの人が利用する公共施設等の除草や伐木、海岸の漂着ゴミの収集を行い魅力的な観光地づくりの推進を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	22,756	12,888	22,383	29,318	32,390
		(b)予算現額	16,807	10,898	26,219	29,318	32,390
		(c)増減額(b-a)	▲5,949	▲1,990	3,836	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A.計(b+d)		16,807	10,898	26,219	29,318	32,390
	B.執行済額		14,956	10,671	23,400	29,318	28,499
	うち交付金充当額		11,964	8,537	18,720	23,454	22,799
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.0%	97.9%	89.2%	100.0%	88.0%
予算の状況の説明		事業期間いっぱいでの作業実施の確認が困難であるため、1週間前倒しにて事業完了を行い、残りの期間においては、村単独にて実施したため、97%の執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光ルート等の雑草の除去および清掃作業を実施する。 ・アクセス道路:10路線 ・観光地:15カ所	目標	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	(10路線 15箇所)	
		実績	11路線 7箇所	11路線 7箇所	11路線 7箇所	11路線 10箇所	
草刈機等のメンテナンス強化	目標	(作業後の メンテナンス実施)	(作業後の メンテナンス実施)	(作業後の メンテナンス実施)	(作業後の メンテナンス実施)		
	実績	作業後の メンテナンス実施済	作業後の メンテナンス実施済	作業後の メンテナンス実施済	作業後の メンテナンス実施済		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 外部委託により、作業の管理が効率的に図られた。 作業車両の故障が多発したが、リースや受託者の所有する車両を活用し臨機応変に対応し、効率よく作業を実施した。 県道田名野甫線、村道アグチャー線、クマヤー線、アツヤビシ線、アサ線、田名西線、島尻西線、野甫線、屋蔵線、我喜屋ダム線、村道灯台線の11路線、観光地に関しては、伊平屋灯台、クマヤー海岸、潮下浜、念頭平松公園、とらず岩、我喜屋ダム、上ノ川公園、米崎海浜公園周囲、野甫展望台腰岳林道の10カ所 計21カ所の美化作業を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		80%	80%	80%	
	【参考指標】 観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業:18カ所	目標	()	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	()
実績			51.6km 18カ所	51.6km 18カ所	51.6km 21カ所		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 来島者からは観光地にふさわしい環境であると回答を得られた。 募集呼びかけにより作業員の確保を試みたが、人員の確保が困難であったが、日雇いなどにより対応し、観光アクセス道路の延長51.6kmおよび21箇所の美化清掃および作業を進めることができた。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・効果的な作業による標達成に向け、作業員の確保に努め、継続的にかつ効率よく作業を実施する。</p>	<p>・固定作業員の確保が困難であるため、日雇いや時間雇用も含め作業員の確保を行う。 ・ゴミの漂着が多く、作業回数を増やす必要があり、現況を確認しながら適宜作業を継続する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>日雇いや時間雇用も含め臨機応変に作業に対応することができたが、作業員の人数不足が否めない状況である。随時作業員の募集、呼びかけを継続し作業員を確保し作業能力の向上を図っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
28,499	28,499	22,799	5,700	

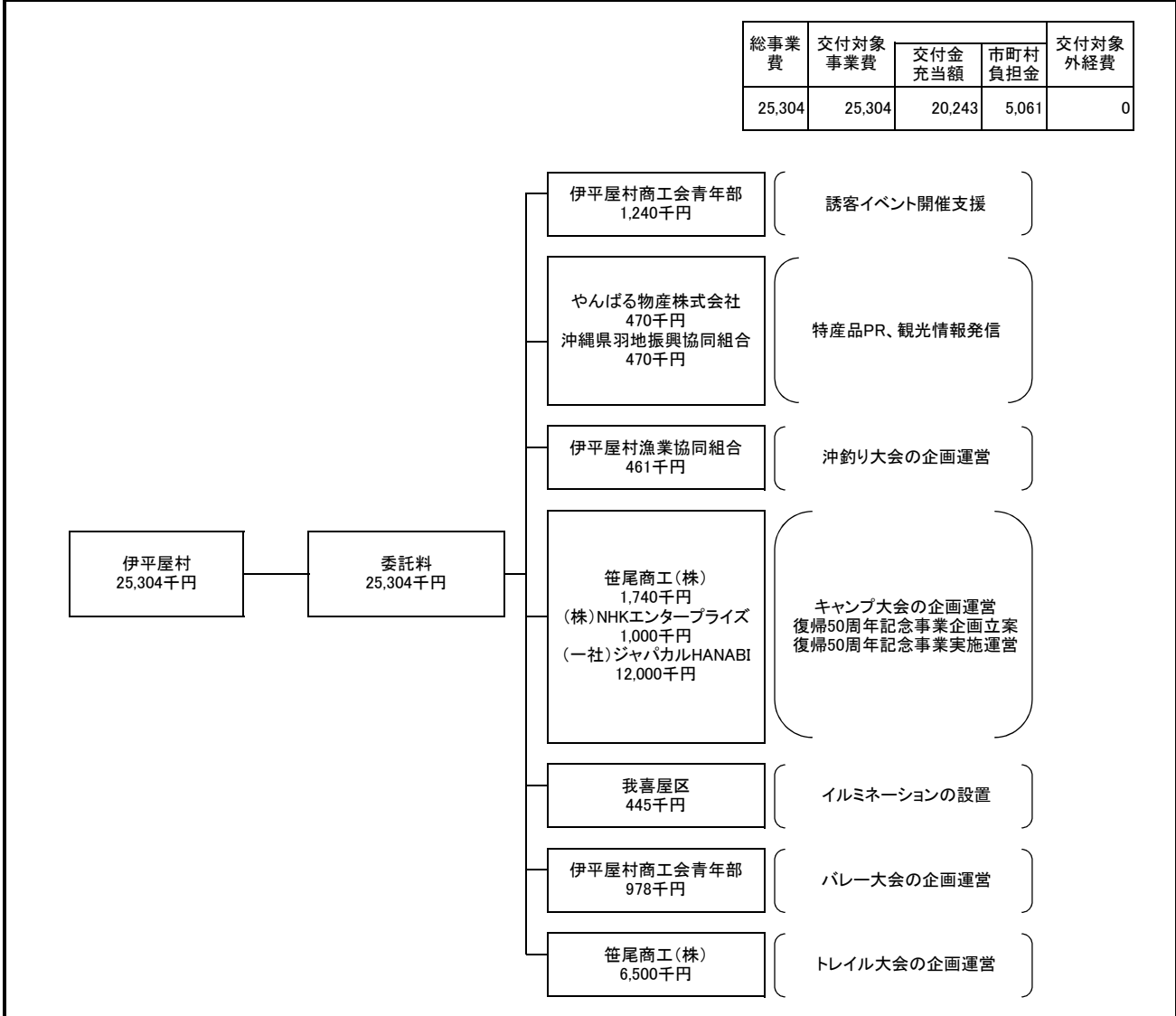


資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内の団体へ公募を行い、選定をしているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支出先については、建設業協会実施代行者と委託契約を行った。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、事業内容に見合うものとする。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	誘客イベント推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部課名	観光交通課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	観光誘客を図るためイベントの開催支援等を行い、入域観光客の増を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	44,235	41,477	39,900	41,094	41,254
		(b) 予算現額	44,235	40,957	9,250	6,150	30,073
		(c) 増減額(b-a)	0	▲520	▲30,650	▲34,944	▲11,181
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		44,235	40,957	9,250	6,150	30,073
	B. 執行済額		43,766	40,808	9,127	6,007	25,304
	うち交付金充当額		35,012	32,646	7,301	4,805	20,243
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.9%	99.6%	98.7%	97.7%	84.1%
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していたイベントの中止や延期を余儀なくされたことで11,181千円を減額補正した。 なお、変更後の事業計画については予定通り執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・委託事業8件	目標	(8件)	(5件)	(6件)	(8件)	
		実績	8件	5件	5件	7件	
	・補助事業3件	目標	(4件)	(1件)	(1件)	(0件)	
		実績	4件	1件	1件	0件	
達成状況説明	・委託事業については、委託予定していた団体が活動休止となったことにより1件減の7件となった。 ・補助事業については新型コロナウイルス感染拡大の影響により全て中止となったため0件となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	村内入域観光客数11,925人以上	目標	()	(12,136人以上)	(13,315人以上)	(11,925人以上)	()
		実績		13,315人	11,925人	18,044人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症対策による行動制限等が緩和されたためイベントの開催方法を検討し、復帰50周年記念事業としてキャンプ大会の拡充(音楽ライブ・花火)を行った。新たな試みとしてイベントの様子をライブ配信したことで県内外に伊平屋村をPRすることが出来た。 ・その他、経済活動の活発化によりコロナ前と比べ村内を訪れる観光客も増加したため、目標値を達成することが出来た。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 公共事業関係者の長期滞在等により村内宿泊施設の予約が取りづらい状況が続いている。そのため、イベントの規模によっては島外からの参加人数を制限せざるを得なくなっている。 コロナ禍による活動制限の影響により村内団体の活動休止があった。誘客を推進するうえで、村内団体の活動は非常に重要となってくるため、今後事業の実施方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催時には参加者が優先して宿泊できるよう事前に宿泊施設と調整を図るなど、連携した取組を検討していく。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 実施事業の効果を検証しより効率的な誘客に繋がるよう取組みの検討を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

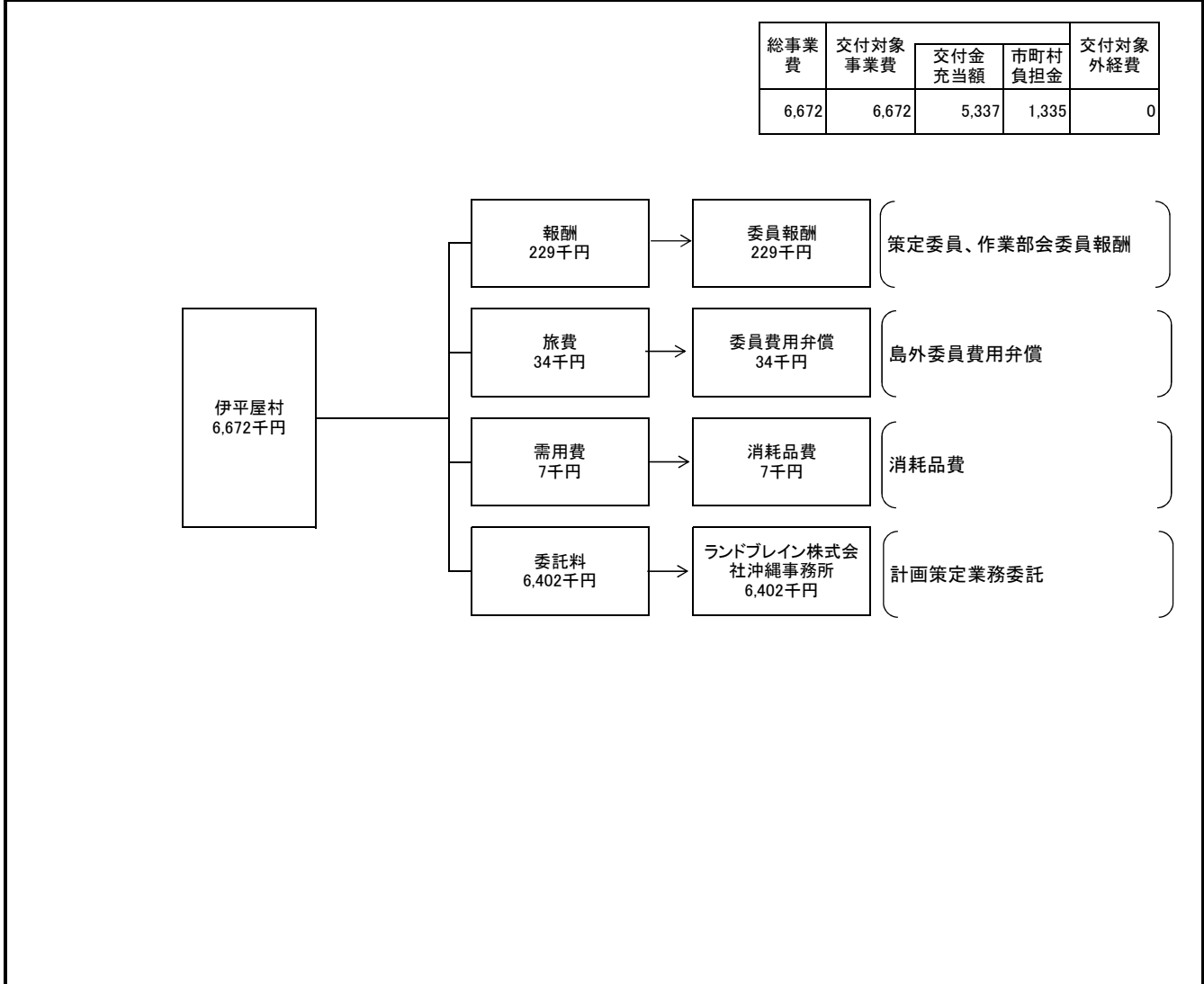


評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業については、本村の地域性を十分考慮し積極的な事業を行っている村内団体、また村内外の業者とも情報交換を積極的に行え村内情報のPRについて高い効果を発揮できる団体を選定したため妥当である。 ○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。 ○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査、妥当と判断する。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施、目的に即し必要なものであったと判断したため、限定していると判断した。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	観光振興基本計画策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	観光交通課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	本村の総合的な観光振興を中長期的に推進していくため、「第4次伊平屋村観光振興計画」を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
		(a)当初予算額	8,078				
	(b)予算現額	8,078					
	(c)増減額(b-a)	0					
	(d)繰越額	0					
	A.計(b+d)	8,078					
	B.執行済額	6,672					
	うち交付金充当額	5,337					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	82.6%					
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症対策やフェリーの欠航により、予定していた委員会等をオンライン開催や書面決議に変更したため、報酬や旅費の不用額が発生した。その他は概ね計画通りに執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	観光振興基本計画の策定	目標	(計画の策定)	()	()	(計画の策定)	
		実績	策定完了			策定完了	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	伊平屋村観光振興計画策定委員会において、本村の現状や課題を把握し、中長期的な計画を策定した。本村観光振興の目指す姿として「島の価値を守り育む観光」を基本目標に掲げ、「島民の生活が豊かになる観光」、「島の自然資源を守り改善する観光」、「島の文化資源を維持・発展させる観光」の3つの基本戦略をたて計画を推進していく。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R5年度)
	観光振興基本計画の策定完了	目標	()	(計画の策定)	()	()	()
		実績		策定完了			
	【参考指標】 ・入域観光客数 17,700名以上	目標	()	()	()	()	17,700名以上
		実績					
進捗状況説明	伊平屋村観光振興計画策定委員会において、本村の現状及び課題の把握を行い、今後10年間の観光振興に向けた基本目標や基本施策を決定した。関係人口の創出、自然環境と集落景観の保全、島民の営みを守り育てることを目標達成のための手段とし、観光振興を推進していく。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本村の宿泊施設は令和4年度末時点で10カ所あるが、公共事業等に伴う長期滞在の影響により、村内宿泊施設の予約が取りづらい状況となっている。 ・本村を訪れる交通手段は1日2便のフェリーのみであり、悪天候時には欠航となることもあるため、旅行者の大きなハードルとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関と連携、調整を進めながら対策等を検討する。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後は策定した計画に則って各種イベントの開催、関係人口の創出や歴史、文化、自然体験等を活用した体験型交流産業を推進しながら観光誘客に取組む。 		

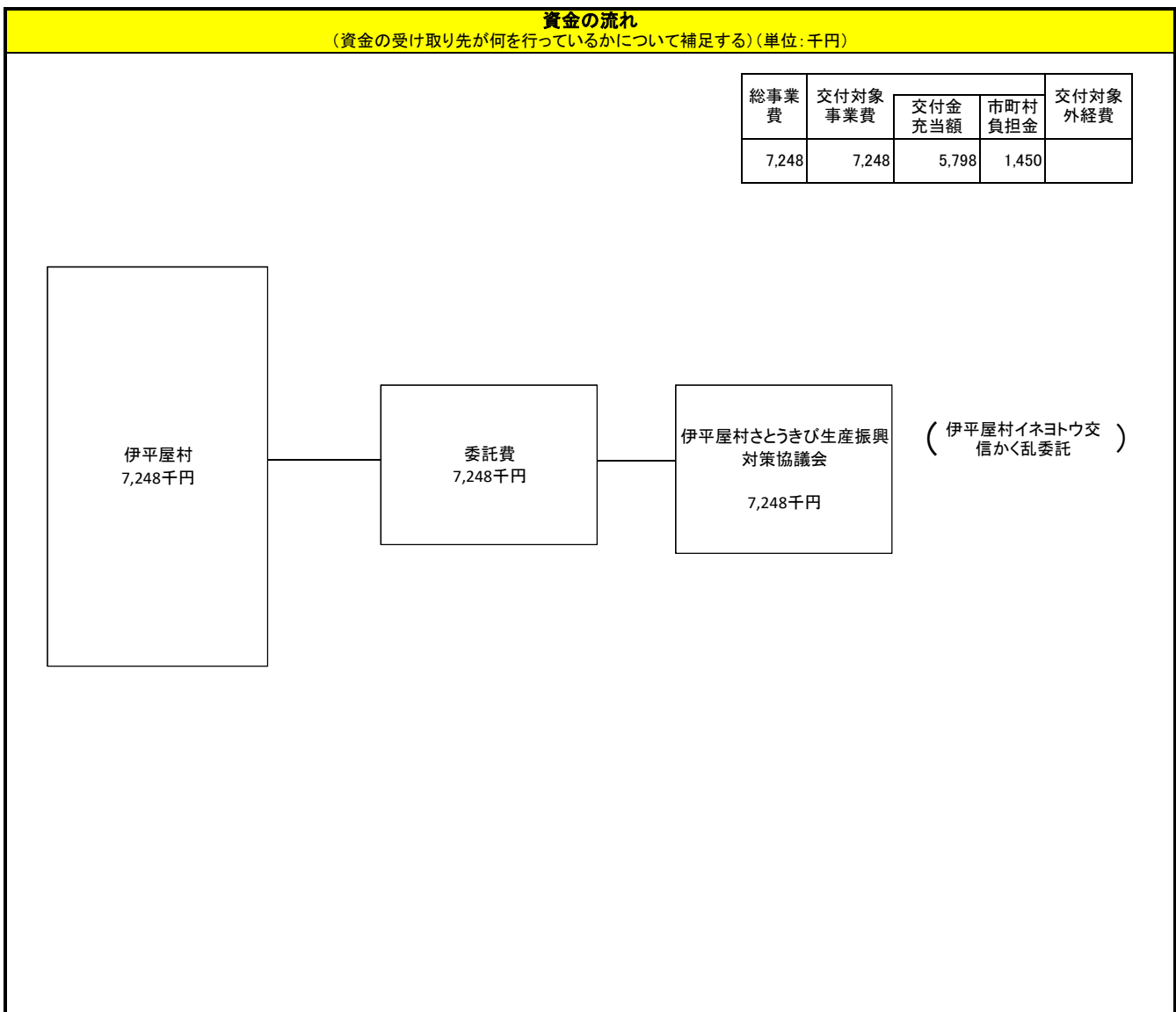
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○業者の選定方法は専門的知識を有する業務であることから、企画提案方式で選定しており、妥当だったと考える。 ○予算規模は内容に即した事業内容で実施され、適正であると考える。 ○費用や使途については事業の目的達成の観点から必要なものに限定され適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	病害虫防除事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-イ		
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産農林水産物の案圓・安定供給と消費者信頼の確保		
事業内容	さとうきびの生産性の向上と農家所得の向上を目指し、収穫量低下の原因となっている病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐため防除作業を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(b) 予算現額	7,693	7,877	7,129	7,877	7,798
		(c) 増減額(b-a)	7,693	6,335	7,129	7,877	7,798
		(d) 繰越額	0	▲1,542	0	0	0
	A. 計(b+d)	7,693	6,335	7,129	7,877	7,798	
	B. 執行済額	7,002	7,349	6,335	6,320	7,248	
	うち交付金充当額	5,601	5,879	5,068	5,703	5,798	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	91.0%	116.0%	88.9%	80.2%	92.9%	
	予算の状況の説明	当初予定した予算内での執行となり、R4年度の設置面積が162.5haと概ね計画どおりの執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	防虫剤(性フェロモンチューブ)散布:160ha		目標 (160ha)	(160ha)	(160ha)	(160ha)	
			実績 141ha	160ha	141ha	162.5ha	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	伊平屋村さとうきび生産の目標値の160haに対し、フェロモンチューブ設置面積は、162.5haの実績値となった。村全体での防除作業を効果的に実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	病害虫防除等によるさとうきび生産量の安定化		目標 ()	(4,801t)	(5,277t)	(5,277t)	()
			実績	5,281t	4,282t	5,203t	
	・病害虫の発生件数の抑制 平均6.00匹/日以内		目標 ()	()	(平均6.00匹/日以内)	(平均6.00匹/日以内)	()
		実績		平均1.08匹/日	平均1.30匹/日		
進捗状況説明	例年は年に1度3月に実施していたが、令和4年度から病害虫(イネヨトウ)の発生時期の過去データをもとに11月と2月の2回に分けて初期防除を行った。その為、被害を最小限に抑えることができ、生産目標値を若干下回ったものの、98.6%の実績となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・病害虫(イネヨトウ)はイネ科雑草・ほ場周辺縁部等の雑草にも寄生するため、農家による周辺雑草の管理について継続的な指導を実施し、さとうきび圃場の被害を防ぐ必要がある。</p> <p>・初期防除により病害虫(イネヨトウ)による被害を最小限に抑えることはできた。</p>	<p>・JA及び生産農家・各関係機関と連携し共同防除として取り組み、イネ科等の周辺雑草等の管理も含めた肥培管理及び薬剤使用等の指導・啓蒙を引き続き推進し、さとうきび圃場の被害軽減および生産量の安定化を図る。</p> <p>・年度毎の病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、翌年度以降の成果目標に発生件数又は抑止件数を追加することで、病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐことを目的とした当事業の効果検証を明確化し、共同防除を行う生産農家の意欲向上を図る。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・JA及び生産農家・各関係機関と連携し、連絡会や総会等を通して肥培管理および薬剤使用等の指導を定期的に行う事で、病害虫(イネヨトウ)の慢性的な発生の未然防止に取り組むと共に、関係機関と連携した共同防除を継続し、生産量の安定化に向け取り組む。</p> <p>・沖縄県病害虫防除技術センター等の病害虫予察情報等を活用し、発生動向を考慮した早期防除に取り組むと共に、病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、当事業の効果検証および今後の被害軽減に向けた目標設定を明確化することで、より効果ある共同防除に取り組む。</p>		



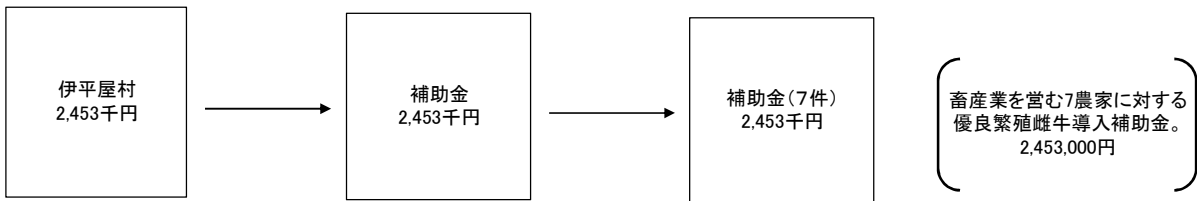
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、村及びJA、生産農家等で構成されている伊平屋村さとうきび生産振興対策協議会を選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業内容に見合うものとする。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、防除剤設置作業を生産農家等の協力により実施しているため、負担を無しとしている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	伊平屋村優良繁殖牛導入事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	農家の経営安定化を図るため、畜産農家が行う繁殖牛導入費用の一部(上限を50万として、購入費用の半額を補助)を助成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,600	5,600	5,600	7,000	7,000
			5,600	3,200	5,600	7,000	7,000
			0	▲ 2,400	0	0	0
			0	0	0	0	0
		5,600	3,200	5,600	7,000	7,000	
	B. 執行済額 うち交付金充当額		5,544	3,132	4,635	4,981	2,453
			4,435	2,505	3,708	3,984	1,962
		0	0	0	0	0	
		99.0%	97.9%	82.8%	71.2%	35.0%	
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響による渡航自粛や、飼料価格等の高騰により畜産経営環境が厳しい状態となり執行率が低くなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭	目標	(14頭)	(14頭)	(14頭)	(14頭)	
		実績	8頭	11頭	13頭	7頭	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響による渡航自粛や、飼料価格等の高騰により畜産経営環境が厳しい状態となり、優良繁殖雌牛導入数7頭と目標を下回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 102%以上	目標	()	(102%以上)	(102%以上)	(102%以上)	()
		実績		108%	107%	107%	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	本事業により導入した繁殖用雌牛から産まれた子牛とそうでない子牛を比較した結果、目標を達成することが出来た。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により島外への渡航自粛もあって、雌牛を購入(導入)する時期等農家へ導入計画の支援をおこなう必要がある。 ・導入計画が年度途中で変更になることがあるので、関係団体と連携し導入に努める必要がある。 ・子牛のセリ値については市場の状況により乱高下することもあることから、小・中規模の経営体が多数を占める本村においては、安定的な畜産経営が行えるよう中・長期的な経営計画策定や事業による支援等を引き続き必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに導入計画を立てるよう調整し、導入計画に変更が生じた場合は、関係団体と連携し導入に努める。 ・畜産農家への支援としては、繁殖技術の向上等について講習会の開催や他地区との技術交流支援を行う。
	今後の取り組み方針	
<p>母牛点数の高い雌牛を導入し、産まれた仔牛(雌)を新たな繁殖用雌牛として育成することや、白血病検査の実施によって品質向上を図り、引き続き事業継続による導入を支援していく。また、説明会・講習会の開催や他地区との技術交流支援、畜産共進会等への積極的な参加を推進することで繁殖技術の更なる向上と村内の繁殖用雌牛の改良・更新を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,453	2,453	1,962	491	



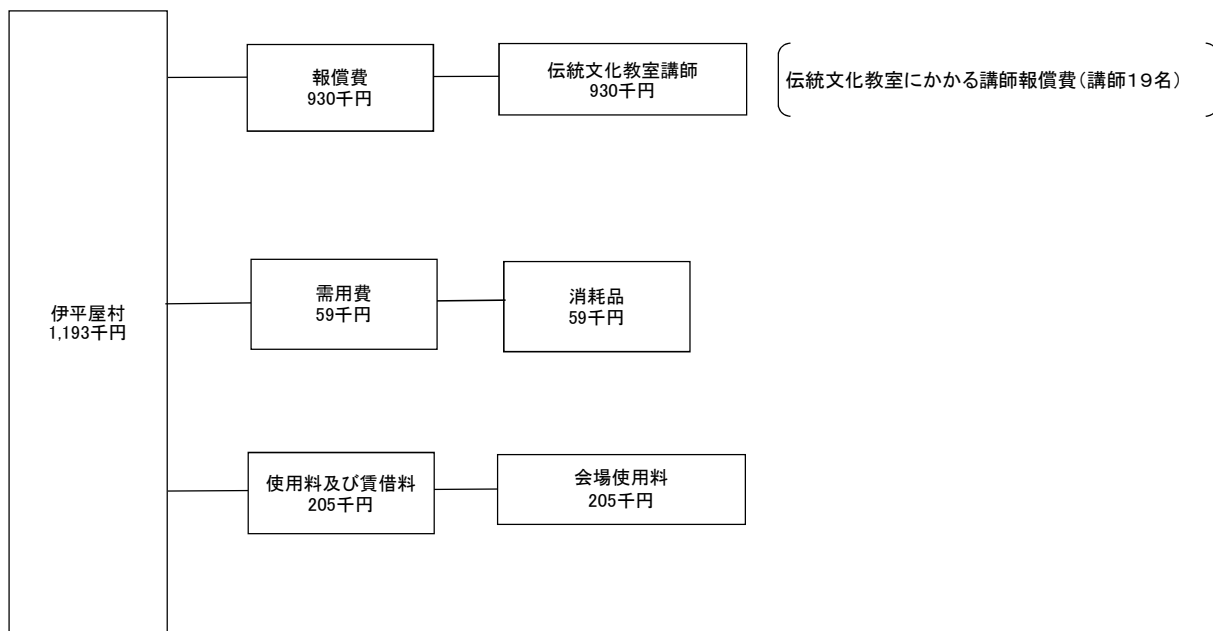
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、村内の畜産農家全員を対象としており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○自家保留する農家が増えたことにより減額となった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者への補助は、事業に係る費用の半額且つ上限額を定めており妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・用途については、事業目的である繁殖牛導入に係る費用の補助のみとなり適正である。

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	令和4~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、地域人材等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,452	9,148	7,290	9,109	12,000
		(b) 予算現額	8,752	7,946	7,290	9,109	12,000
		(c) 増減額(b-a)	1,300	▲1,202	0	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	8,752	7,946	7,290	9,109	12,000	
	B. 執行済額	7,084	6,958	6,691	2,215	1,193	
	うち交付金充当額	5,667	5,566	5,361	1,771	954	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	80.9%	87.6%	91.8%	24.3%	9.9%	
予算の状況の説明	・新型コロナウイルス感染拡大の影響による芸能祭の中止や、島内伝統文化実施、伝統文化教室の開催数減により、執行額が大幅に減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	伝統文化教室の開催(毎月第3水曜日)	目標	(14講座(11回))	(19講座(11回))	(16講座(11回))	(13講座(10回))	
		実績	14講座(11回)	19講座(8回)	16講座(6回)	13講座(8回)	
	各支部・団体への支援(6団体)	目標	(6団体)	(6団体)	(6団体)	(6団体)	
		実績	6団体	6団体	3団体	0団体	
	島外芸能公演の開催出演	目標	()	()	(1回)	(1回)	
実績				0回	0回		
達成状況説明	・新型コロナウイルス感染症拡大防止により芸能公演が未開催のため、島外芸能公演の開催出演は未達成となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	伝統文化教室への参加率:100%	目標	()	(100%(136名))	(100%(127名))	(100%(116名))	()
		実績		100%(136名)	100%(127名)	100%116名	
	伝統芸能演舞者数:80名	目標	()	(80名)	(80名)	(80名)	()
		実績		66名	15名	中止	
	来場者数:300名	目標	()	(100名)	(300名)	(300名)	()
実績			140名	0名	中止		
進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症拡大防止による芸能公演が未開催のため、伝統芸能演舞者数と来場者数は実績無しとなった。 ・伝統文化教室の参加率は100%で目標達成しているが、コロナ感染拡大防止により実施数が活動目標数値より下回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による村諸行事の中止が相次ぎ、伝統芸能継承の機会が減少しており、体験講座を維持する必要がある。 ・講師の高齢化や伝統芸能に関わる講師が少なく、教室の開催プログラムの内容を精査する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内活動の見直し・改善を行い、文化継承が持続可能なプログラムの検討を図る。 ・子ども向けだけでなく、大人世代の伝統文化教室を開催するなど、後継者育成にも着目し、持続できる文化芸能の保存・継承ができるプログラムを構築する。 ・琉球舞踊だけでなく、三味線や琴、太鼓など興味関心を深める講座等を開設できるよう取り組みを推進する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・講師の高齢化・人材不足解消に向け、地域人材や村民俗芸能保存会と連携し、新たな人材育成の取組を行う。 ・本村出身の芸能関係者との連携を図りながら、伝統芸能・文化の継承機会を増やし、興味関心をもつ講演等を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,193	1,193	954	239	0

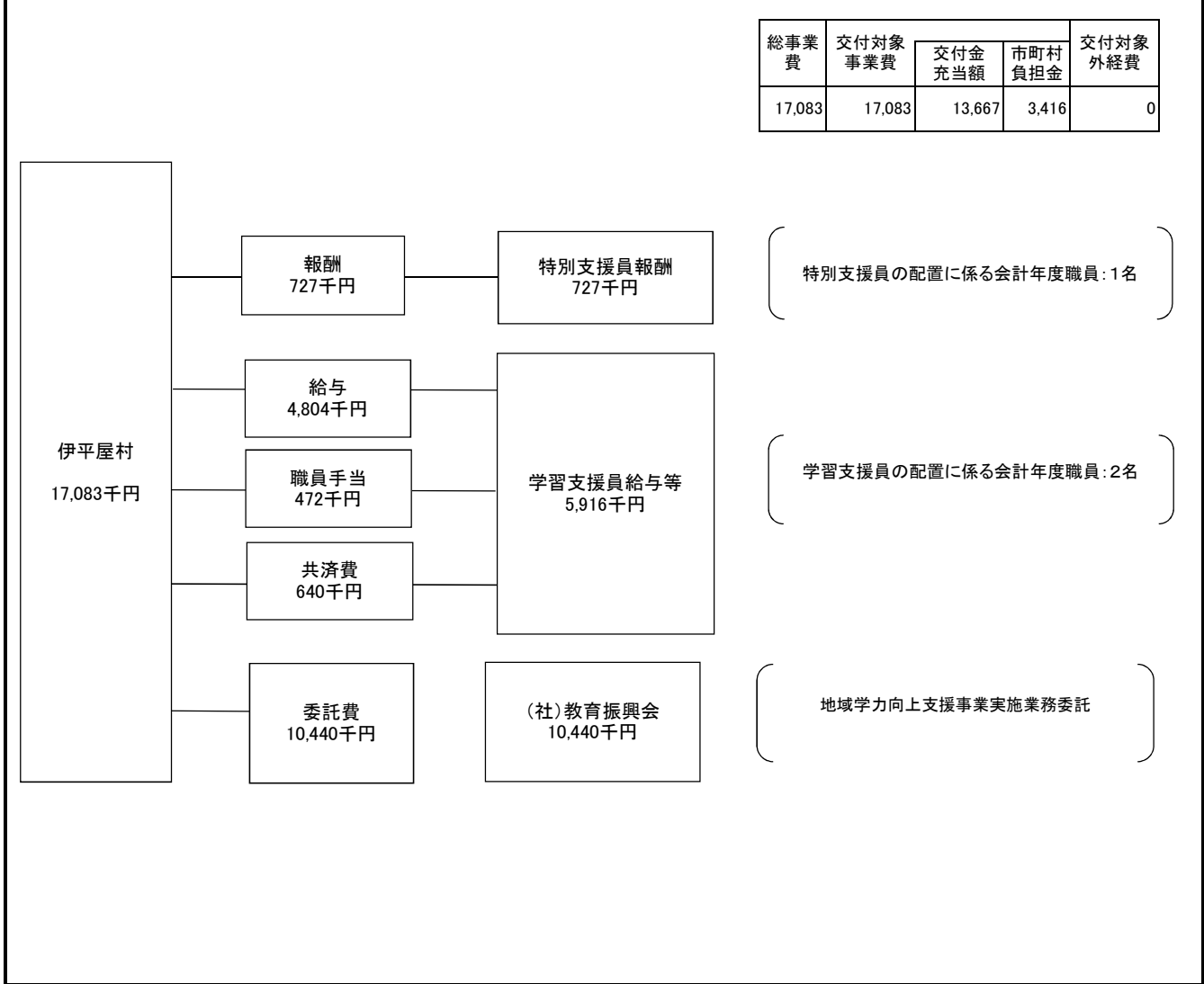


資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○講師については、業務実績、実技能力を勘案し選定を行っているため、妥当であったと考える。 ○計画変更による減額を行っており、不用額を除いては妥当であったと考える。 ○事業目的に即した人件費・委託費の支出であるため妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②		特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
	担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進	
事業内容	個別にあったきめ細かい学習支援を実施するため、特別支援教育支援員を各所へ配置する。 ①村営塾の塾講師を配置し、家庭学習支援等による教科指導を強化する。 ②特別支援を必要とする児童に対し、学校専属の支援員を配置し、授業支援の強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	20,768	23,125	23,150	23,150	23,150
	(b) 予算現額	20,768	23,125	23,150	23,150	23,150	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	20,768	23,125	23,150	23,150	23,150	
	B. 執行済額	20,120	22,539	19,424	17,186	17,083	
	うち交付金充当額	16,095	18,031	15,381	13,748	13,667	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	96.9%	97.5%	83.9%	74.2%	73.8%	
予算の状況の説明	放課後の学習支援を計画に沿ってスタートできたが、コロナ感染症防止による村営塾の休塾等により執行額が減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別支援を必要とする児童への支援員の配置 1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	学習支援員の配置 2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		3名	3名	3名	2名		
達成状況説明	・小学校特別支援員については、年度初めより1名配置でき、目標達成できた。 ・学習支援員を中学校へ年度当初より2名配置でき、目標達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		85.00%	100%	100%	
	沖縄県学力到達調査における、県と本村との平均正答率の差 小学校 -5.0ポイント以上 中学校 -4.3ポイント以上	目標	()	小:-5.9以上 中:-2.7以上	小:-5.9以上 中:-2.7以上	小:-5.0以上 中:-4.3以上	()
		実績		小:+8.2 中:-11.2	小:+0.9 中:-7.9	小:-9.375 中:-2.95	
進捗状況説明	・特別支援対象となる児童生徒の保護者へアンケートを行った結果、学習支援員配置について満足度100%であった。児童へのきめ細やかな学習支援活動ができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策による塾休校時における対応は、電話等での学習支援を実施し、学力及び学習意欲を継続して行った。 ・学力到達度テスト調査における県と本島との平均正答率の差については、小学校は目標に届かなかったものの、中学校においては、一定の成果が見受けられた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・支援を必要とする児童が複数いるため、個々の発達状況に応じた細かい個別支援が必要である。	・多様化する特別支援、学習支援の在り方について、保護者のニーズを把握するとともに、学校・保護者との密な連携や外部専門家との連携により、更に多角的・多面的に支援ができる取り組みを検討・推進を図る。
	・今年度の新たな取り組みとして、小学6年生を塾の対応範囲とした。しかし、半数が不参加であったため、実施する意義を継続して周知する必要がある。	・定期的に行っている模試などの結果を分析し、重点的な指導や授業展開を行う必要がある。
	・同一クラスにて通年実施しているため、指導する学力の差が課題。習熟別で実施するなど見直しが必要。	・継続した学習に対する意識付けを行うため、塾の様子などが分かるよう工夫を凝らす。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の発達の多様化により、学習支援の在り方は日々変化・改善する必要がある。生徒一人一人に応じた多様なサポート体制を構築する必要があるため、学校と塾、教育委員会が連携を強化し、学習支援の統一化を図るとともに、主体的な学習支援を行う。 ・村営塾の学習支援については、学校と連携することで相乗効果を得るべく、月一の業務調整を行う必要がある。 ・村営塾を受講している子どもたちの学習到達の幅があるため、当初より習熟度別でクラス分けを行うなど運営の見直し・改善を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

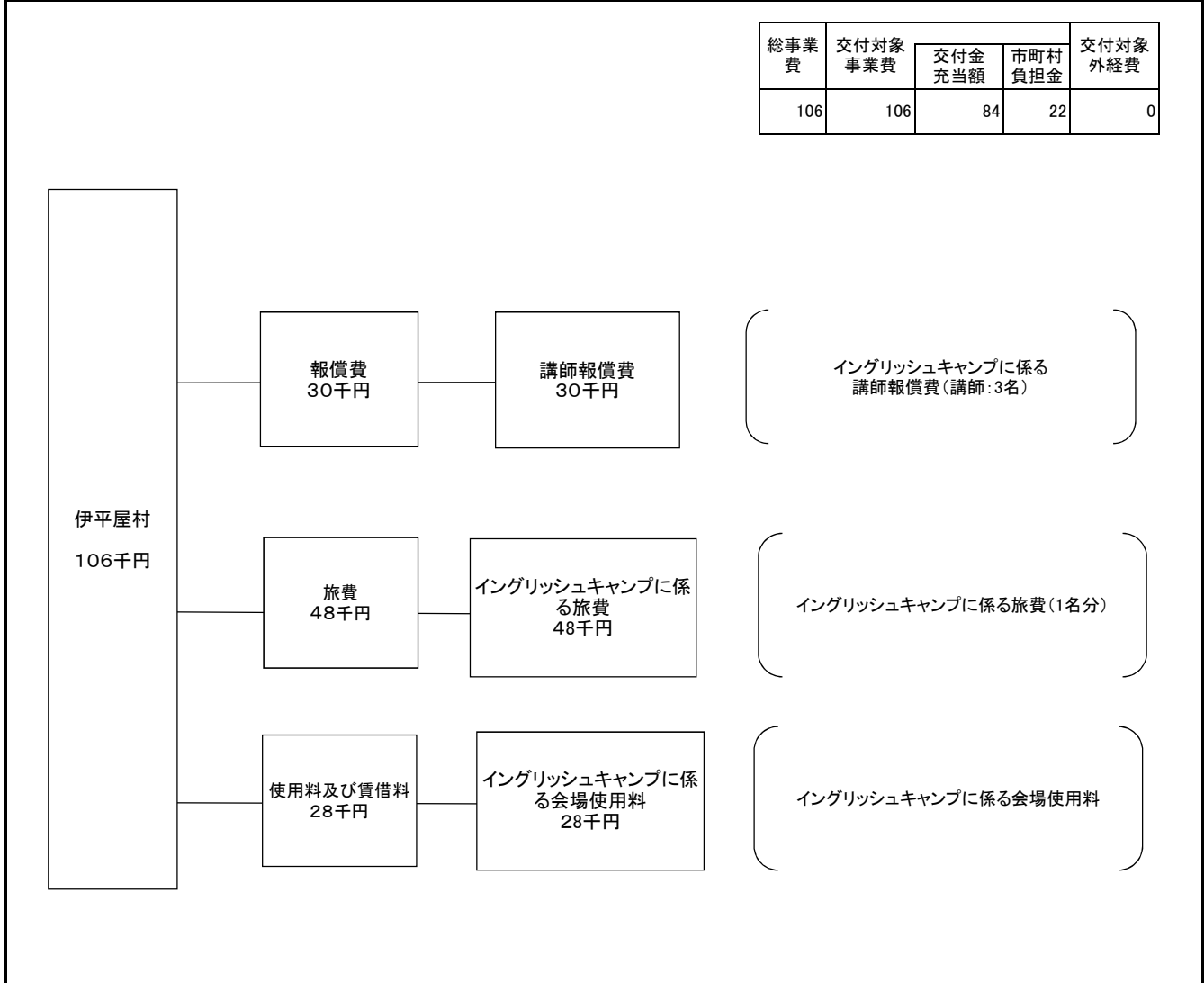


資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員配置については、業務実績、実技能力を勘案し選定を行っているため、妥当であったと考える。 ○計画変更による減額を行っており、不用額を除いては妥当であったと考える。 ○事業目的に即した人件費・委託費の支出であるため妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、イングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し異文化を体験する機会を与える。また、イングリッシュキャンプでは英語でのコミュニケーションやスキットなど英語を使った発表機会を多く盛り込み、語学学習だけでなくコミュニケーション能力や表現力の向上を図ることを目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,930	1,930	2,150	2,110	2,110
			1,930	1,786	310	2,110	2,110
			0	▲144	▲1,840	0	0
			1,930	1,786	310	2,110	2,110
	B. 執行済額		1,832	1,692	242	174	106
	うち交付金充当額		1,465	1,353	166	139	840
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		94.9%	94.7%	78.1%	8.2%	5.0%
	予算の状況の説明		・新型コロナウイルス感染症の影響により、海外短期留学プログラムが中止となり、執行率が下がった。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	海外短期留学(アメリカ):3名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	3名	中止	中止	中止	
	イングリッシュキャンプ:30名	目標	(30名)	(30名)	(中止)	(30名)	
		実績	23名	27名	中止	8名	
達成状況説明	・毎年度利用している海外短期留学プログラムが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となり派遣が出来なかった。 ・イングリッシュデイキャンプは、コロナ感染による不参加や部活との兼ね合いで全体で8名(小学生7名および中学生1名)であったことから、目標人数を下回った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	保護者(派遣生徒)へのアンケートで、外国人講師との交流を通じて、児童生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%)を含め、島外事業の在り方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		87.00%	100%	87.5%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・毎年度利用している海外短期留学プログラムが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となり派遣が出来なかった。 ・イングリッシュデイキャンプは、部活との兼ね合いで全体で8名(小学生7名および中学生1名)であったことから、目標人数を下回った。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・新型コロナウイルス感染症による影響で海外短期留学プログラムが実施されなかった。	・海外短期留学派遣事業に代わる代替案を検討し、沖縄の地域性を活かした基地内での留学生度などを活動できないか検討する。
	・イングリッシュデイキャンプは、当初申込のあった人数からコロナ感染による辞退などで、人数が大幅に減となった。	・代替案を提案するうえで、安心・安全を確保できるかなどプログラムの内容を精査する必要がある。
	・小学1年生から中学3年生までを募集しており、部活動との兼ね合いから中学生の参加が少なかった。	・イングリッシュデイキャンプでは、英語の能力に個人差があり習熟別で分けるなど相違工夫が必要。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・海外短期留学派遣については、学習意欲のある児童生徒の育成を中断させないよう、代替案を含め、他市町村や関係機関と連携を図る。 ・イングリッシュデイキャンプは、習熟別分けながら個々に応じたプログラムを提供できるよう工夫しつつ、安定した学びの環境を構築する。 ・ALTの活用や地域人材を活用したプログラムを考案し、意欲的に学習できるよう環境を提案する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

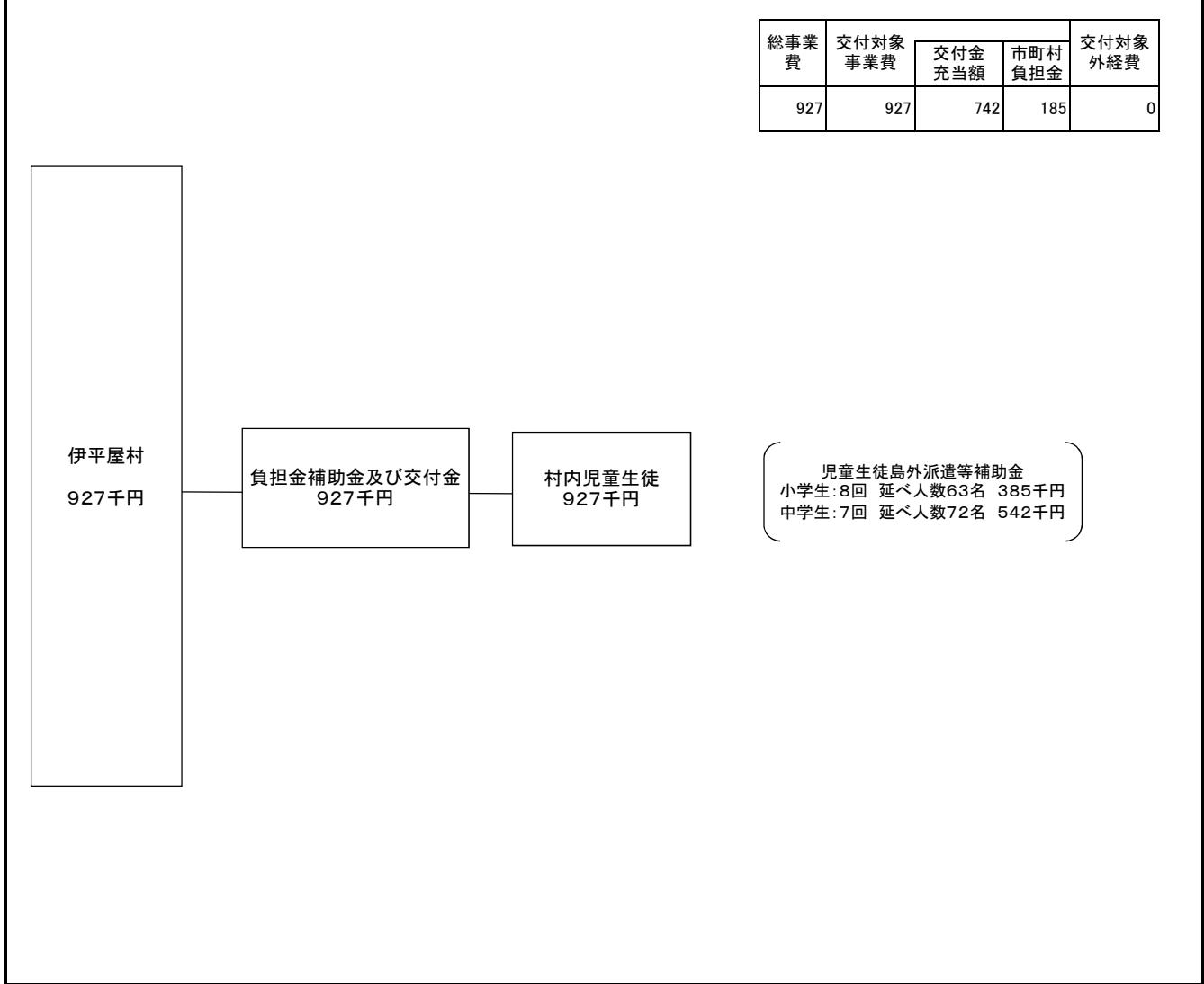


資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は事業に関する内容であったため、妥当であったと考える。 ○計画変更があったが、変更後実施した内容については、妥当であったと考える。 ○費用・使途は事業目的のみ限定したことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村																									
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】																											
事業番号・事業名	3-④	伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(4)-ア																					
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和4年度		沖縄振興基本方針該当箇所	離島と本島・県外との交流促進 Ⅲ-3-(1)																					
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、本島との交流機会が少ない離島の特殊性の平準化に努め、小規模校では経験できない他地域との交流や各種イベント・スポーツ大会を通じ、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。																										
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)																										
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()																										
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度					R1年度					R2年度					R3年度					R4年度					
		(a) 当初予算額	2,135					2,135					2,151					2,151					2,150				
		(b) 予算現額	1,635					858					1,310					1,310					2,150				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 500					▲ 1,277					▲ 841					▲ 841					0				
		(d) 繰越額																									
		A. 計(b+d)	1,635					858					1,310					1,310					2,150				
		B. 執行済額	617					749					164					164					927				
		うち交付金充当額	493					599					131					131					742				
		次年度繰越額																									
		執行率(%) (B/A)	37.7%					87.3%					12.5%					12.5%					43.1%				
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止等の影響により、各種大会の制限や見送った大会もあり執行は大幅な減額となった。																										
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況																								
			R1年度			R2年度			R3年度			R4年度															
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(小学生4回・60名)		目標	(9回) (135名)			(4回) (60名)			(4回) (60名)			(4回) (60名)														
			実績	7回 136名			1回 20名			7回 52名			8回 63名														
	当該開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(中学生4回・216名)		目標	(6回) (324名)			(4回) (216名)			(4回) (216名)			(4回) (60名)														
			実績	9回 81名			1回 26名			6回 97名			7回 72名														
達成状況説明	各団体が新型コロナウイルス感染症予防措置などによる派遣見送りや大会制限がある中、感染対策を講じ実施した大会もあったことから、派遣人数が目標値を上回る結果となった。																										
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)																				
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が広い視野をもてたか(80%以上)を含め、当該事業の在り方について検証する。		目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()																			
			実績		80%	100%	84.6%																				
			目標	()	()	()	()																				
			実績																								
進捗状況説明	昨年度に引き続き各種大会の開催制限があったものの、村内の児童・生徒に可能な限り派遣を行い、目標数値である回数及び人数を派遣することができた。対象者へのアンケート調査では、「広い視野ももてた」との質問に「そう思う」と回答した保護者は84.6%、「ややそう思う」は11.5%、「あまりそう思わない」は3.8%であったことから、全体的に成果目標は達成できたと考える。																										

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 大会派遣は昨年度より増加。村内スポーツ団体が増えたことやコロナウイルス感染症による制限があったなか、感染防止による観点から自粛し参加できなかった大会もあったため、参加できる取り組みが必要。 文化系の大会派遣が少なく、運動系の大会派遣が大半を占めている。 新たな団体への啓蒙が乏しいため、参加人数に限りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体活動の計画的派遣を促し、実行できるようフォローする。 学校を通じ文化系の大会派遣ができる事を啓蒙する。また、村内大会から村外へ派遣する事業などをうまくリンクさせ、活動助成を図る。 HP等を活用した啓蒙活動を図る。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 各団体への啓蒙の実施を行い、新規団体へのフォローを行う。 今後は新型コロナウイルス感染症による自粛や大会中止など行動制限が緩和される事を踏まえ、学校・地域と連携を図りながら交流や各種イベント・大会等が積極的に行えるよう取り組んでいく。 体育系と同様に文科系の大会へも積極的に参加が出来るよう、啓蒙方法の創意工夫を凝らす。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



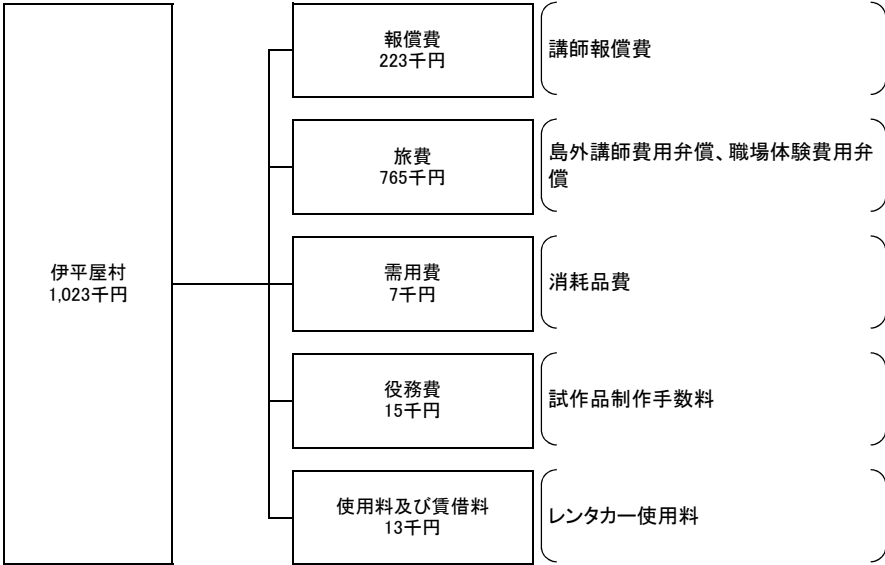
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、児童生徒の所属する団体であることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○開催制限があった大会以外は、事業内容に見合った規模であったため、妥当であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船賃及び宿泊費以外の経費については、受益者負担としたため、妥当であると考えます。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的のみに限定としたことから妥当であると考えます。

市町村名		伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑤	伊平屋島起業家人材育成事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(6)-ア		
担当部課名	観光交通課	事業実施 (予定)年度	平成26年度～令和13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	起業家の育成		
事業内容	15歳で伊平屋村から島立ち(離島)する生徒へ伊平屋村の資源を活用した商品開発と、作製した商品を実際に店頭で販売する販促体験、沖縄本島での職場体験学習を行い、島への誇りと愛着を醸成することによって起業家マインド・キャリア育成を通し就業意識の向上を図ることを目的とする。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,867	4,778	4,809	4,809	4,809	
		(b) 予算現額	4,198	4,168	4,809	4,809	4,809	
		(c) 増減額(b-a)	331	▲610	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	4,198	4,168	4,809	4,809	4,809	
	B. 執行済額		3,854	4,021	2,187	432	1,023	
	うち交付金充当額		3,083	3,217	1,708	346	818	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		91.8%	96.5%	45.5%	9.0%	21.3%	
予算の状況の説明		・執行率が低調となった要因は、授業実施に係る村外サポーターの来島人数の減及び商品開発に係る役員費(パッケージ制作費)が不要となったことによるもの。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	・商品開発を通じた生徒への研修		目標	(研修の実施)	(研修の実施)	(研修の実施)	(研修の実施)	
			実績	研修の実施	研修の実施	研修の実施	研修の実施	
	・パッケージデザイン決定		目標	(デザイン決定)	(デザイン決定)	(デザイン決定)	(デザイン決定)	
			実績	デザイン決定	デザイン決定	未実施	未実施	
	・商品開発・職場体験を通じた商品の発表会		目標	(発表会実施)	(発表会実施)	(発表会実施)	(発表会実施)	
			実績	発表会実施	発表会実施	発表会実施	未実施	
	・本島への職場体験(商品の販売)及びマナー講座		目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
			実績	実施	未実施	未実施	実施	
達成状況説明	・中学1年生については、島発ち教育を見据え、「地域と国際開発論」をテーマに世界の国際課題に目を向けるとともに、村内産業体験を実施した。 ・中学2年生については、昨年度商品開発授業が新型コロナウイルス感染症の影響により予定通り行えなかったため、今年度は業務用アイスクリームの商品開発ということで授業を再開した。市販化まで行うことはできなかったが、生徒の希望を優先した授業を実施した。その他、沖縄本島にて職場体験を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(85%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標	()	(85%以上)	(85%以上)	(85%以上)	()
			実績	/	38%	53%	86%	/
			目標	()	()	()	()	()
			実績	/				/
	進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症や授業日数の減少などの影響もあり、当初の計画通りに事業を進めることはできなかったが、生徒へのアンケート結果を見ると、14名中12名の生徒が働くことへの興味、関心が湧いたと回答した。島外での職場体験は島発ち後のキャリア形成の参考となる貴重な体験となったと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・これまで総合学習の時間を使用して本事業の授業を実施してきたが、授業時間の見直し等もあり、限られた授業時間の中で事業を実施しなければならない。</p>	<p>・学校関係者と連携を密に取り、限られた授業時間のなかでいかに効率よく授業を実施できるか検討していく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・これまで商品開発を通して人材育成を推進してきたが、今後は事業の見直しを行い、中学生のキャリア教育をメインに事業を進めていくこととする。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,023	1,023	818	205	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、この事業に特化した企業等を選択しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容を精査したところ、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考えます。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	福祉従事者人材育成事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(5)-(ウ)	
担当部課名	住民課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～令和6年 度	沖縄振興基本方針 該当箇所	日常生活を支える福祉サービスの向上		
事業内容	村では過去に福祉従事者の為に様々な事業で資格取得に向けて取り組んでおり、有資格者を輩出しているが、受け皿である事業所の施設環境の整備が追いついていない状況である。介護事業所の改革や研修実施、収益改善など効率化構築作業を行い、また、施設管理者向けのマネジメント等、施設改善に繋げ、維持向上を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,508				
		(b) 予算現額	5,508				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		5,508				
	B. 執行済額		5,442				
	うち交付金充当額		4,353				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		98.8%				
予算の状況の説明		・執行残については委託の契約残額によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	・村内外での福祉人材育成確保研修の完了	目標	1回				
		実績	1回				
		目標					
		実績					
達成状況説明	・コンサルティング業者の現場での毎月の訪問指導(2日以上)・遠隔指導(週2回以上)を実施することで施設職員のモチベーション向上を行い離職者が0名の状況となった。 ・施設管理の委託をおこなった社会福祉協議会に対しての指導助言を行い、職場環境の改善(休暇の追加など)を図った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (4年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (6年度)
	・福祉人材3名以上	目標		3名以上			9名以上
		実績		3名			
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	・介護専門職員の離職による安定的な施設運営が困難な状況が続いていることから、コンサルティング業者を毎月定期的に現場介入させることで、介護業務形態、入居者へのアプローチ方法等の改善を行うことで、職員間の就業へのモチベーションが向上し、村内にて介護職初任者研修実施を現場より要望があった。 ・介護職初任者研修を週末夜、休日を利用し3週間の期間で開催。施設職員3名・他職種4名計7名受講					

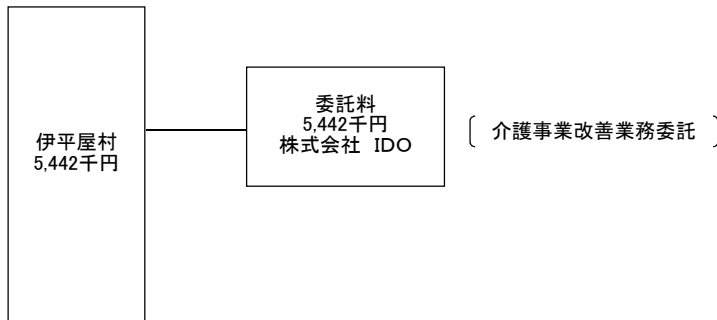
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(利用者・介護従事者の満足度) ・本年度(令和4年度)より取り組んだ介護事業の改善により、業務上抱えている問題点を適宜、助言・指導を実施することで介護従事者の業務に対するモチベーション向上に繋がりを、結果、職員側より介護初任者研修の実施希望の声が上がりました。更に、利用者のニーズに寄り添ったサービス展開を行うことで利用者・職員間の信頼関係が向上した。並びに施設管理を受託している社会福祉協議会に於いても職員目線の経営(休日の提案など)改善などを行うことで、利用者・介護従事者双方で利用しやすい環境構築ができたことが目標達成の要因と考えられる。	(利用者・介護従事者の満足度) ・介護従事者の資格取得の為に介護職初任者研修の開催が年度末になったことで、介護従事者の受講スケジュールがタイトになったこと。

今後の取り組み方針

(利用者・介護従事者の満足度)
・今後は、同受講スケジュールを前倒し且つゆとりあるスケジュールで実施させることで高いモチベーションを維持した状態で受講できる環境を提供し、介護の質を高める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,442	5,442	4,353	1,089	0

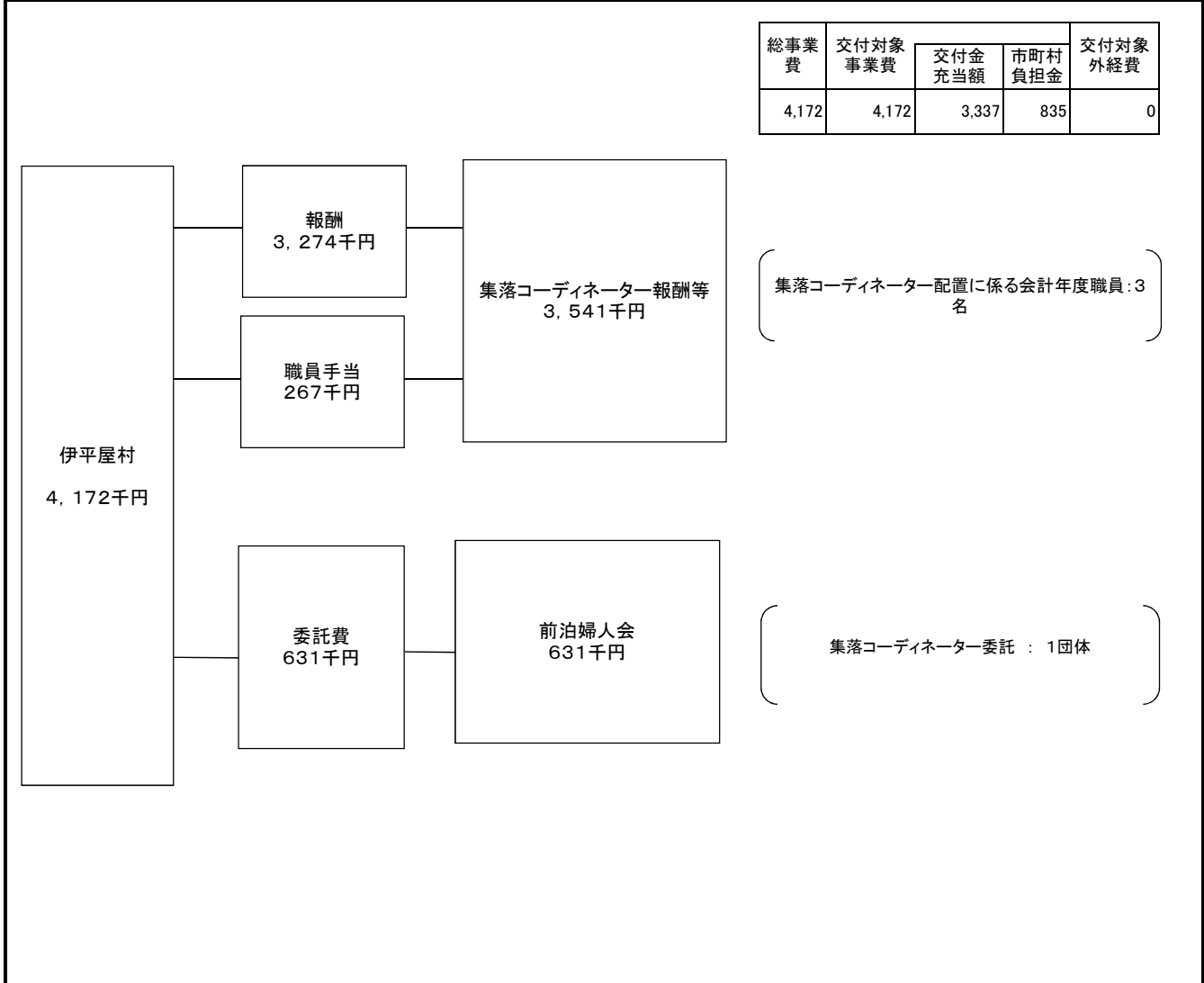


資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は介護事業の専門知識を有し改善業務を実施している業者3者より見積もりを徴し、最低価格業者と委託契約を締結していることから妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○総事業費の2割を村が負担していること。施設は村が委託している社会福祉協議会が運営していることから妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑦	社会教育推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(6)-イ		
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	令和4～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域コミュニティの活動支援		
事業内容	少子高齢化が進む本村において、人口減少も相まって地域活力が低下していることから、集落コーディネーターを配置することで、各集落の公民館機能の維持・拡充を図り、子育てや見守り生きがいつくり等の拠点として共助の仕組みづくりを構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		8,910				
			8,910				
			0				
		B. 執行済額	4,172				
		うち交付金充当額	3,337				
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	46.8%				
		予算の状況の説明	当初予定した人数を配置できなかったことから、大幅な減額することとなった。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	集落コーディネーターの配置:4名/4カ所	目標	(4名/4カ所)	()	()	()	
		実績	3名/3カ所				
	委託事業 1件	目標	(1件)	()	()	()	
		実績	1件				
達成状況説明	当初各字公民館へ配置する予定であったが、3カ所へ直接雇用、1カ所については委託し配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	地域の区長・住民へのアンケートで、支援プログラムの満足度(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		65.0%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・集落コーディネーター配置にバラツキがあり、満足度が目標達成出来なかった。 ・前半はコロナ禍の状況にあり公民館活動が実施できておらず、活動自体が浸透していないこともあり、満足度が低くなっている。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動実施が難しく、前期はイベントを行うことが出来なかった。 各集落へ配置ができず、地域によって実施内容がばらつきが見受けられた。 集落コーディネーターの活動内容が住民に上手く浸透しておらず、活用方法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による制限が段階的に緩和されたことを踏まえ、感染防止の対策を踏まえつつ、公民館活動を行う必要がある。 各集落配置が困難な場合の対応として中央を拠点とした事業実施を図る。 各イベントの周知方法の工夫やSNSを使った情報発信など、工夫を凝らす。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 各集落に配置を行わず中央を拠点とした活動を展開し、各集落の事情にあった公民館活動のイベント実施をする必要がある。 中央で行っていた事業を各集落で行い、地域に根ざした活動を展開出来るよう工夫をこらす。 集落コーディネーターの活動を広く啓蒙する必要がある、SNSの活用など工夫を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



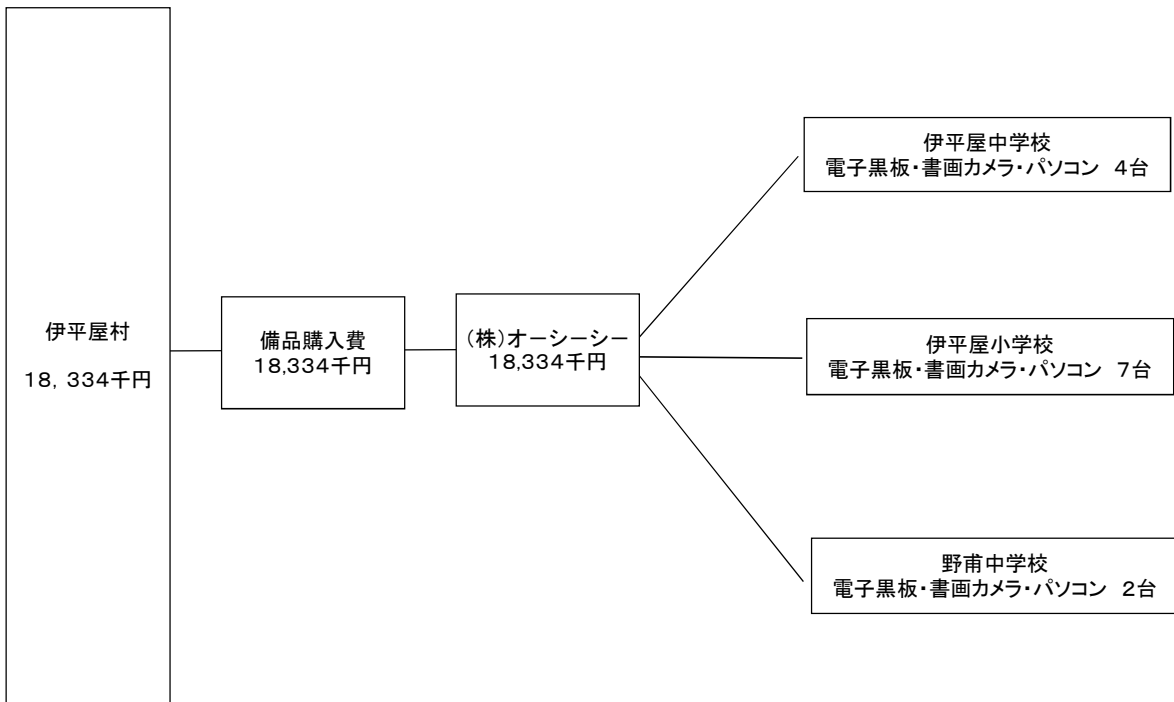
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、各字に在住しているものであり、地域を把握している者を採用していることから妥当であったと考える。 ○計画変更を行い、実働に応じ減額などをおこなったため妥当であったと考える。 ○事業目的に即した人件費・委託費の支出であるため妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑧	伊平屋村電子黒板ICT整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	ICT教育の充実		
事業内容	村内小中学校にICT機器を整備する。GIGAスクール構想の実現に向けて、校内ネットワークへの接続や学習用端末と連携が可能な電子黒板を導入し、主体的な学びの深化を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,335				
		(b)予算現額	18,335				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)		18,335				
	B.執行済額		18,334				
	うち交付金充当額		14,667				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予定した予算内での執行となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	電子黒板・パソコン配置:13台		目標 (13台)	()	()	()	
			実績 13台				
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	伊平屋中学校 4台、伊平屋小学校 7台、野甫小中学校 2台 計13台を設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R5年度)
	機器の導入完了		目標 ()	(導入完了)	()	()	()
			実績	完了			
	児童生徒のICT機器を活用し主体的な学習意欲の向上が図られた値としてアンケート調査(80%以上)		目標 ()	()	()	()	(80%以上)
			実績				
	進捗状況説明	・R5年度アンケート調査により、児童生徒のICT機器を活用し主体的な学習意欲の向上が図られたについて調査を行なう。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・精密機器のためトラブルが起こると授業が予定通りに進まない恐れもあるため、教科書やプリントなど常に準備や確保を図ることが必要になる。	通常の黒板とは違い、「書いたものを保存して残しておく」ため復習や書き直す場合など振返りにより授業の質の向上を図る。
	今後の取り組み方針	
<p>・パソコン操作の講習会を実施し、各教員や児童・生徒もスムーズに利用・活用できるよう取組みを図る。また、事前に準備されたデータや表などを活用し細かな説明・授業の実施が可能となるため、ビデオ教材など応用し視覚的に理解しやすい授業の実施を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
18,334	18,334	14,667	3,667	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、専門的な知識を有し、短期間の納入にも対応できる者であり、妥当であったと考える。 ○不用額は生じておらず予算規模は妥当であったと考える。 ○事業目的に即した備品購入の支出であるため妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 伊平屋村

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (4-① 幼稚園預かり保育支援事業), 担当部課名 (教育委員会), 事業実施(予定)年度 (令和4年度~令和13年度), 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第4章-2-(2)-イ 子ども・若者の育成支援), 沖繩振興基本方針該当箇所 (Ⅲ-9)

事業内容 保護者の育児における負担感を軽減するため、幼稚園へ嘱託保育士を配置する。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

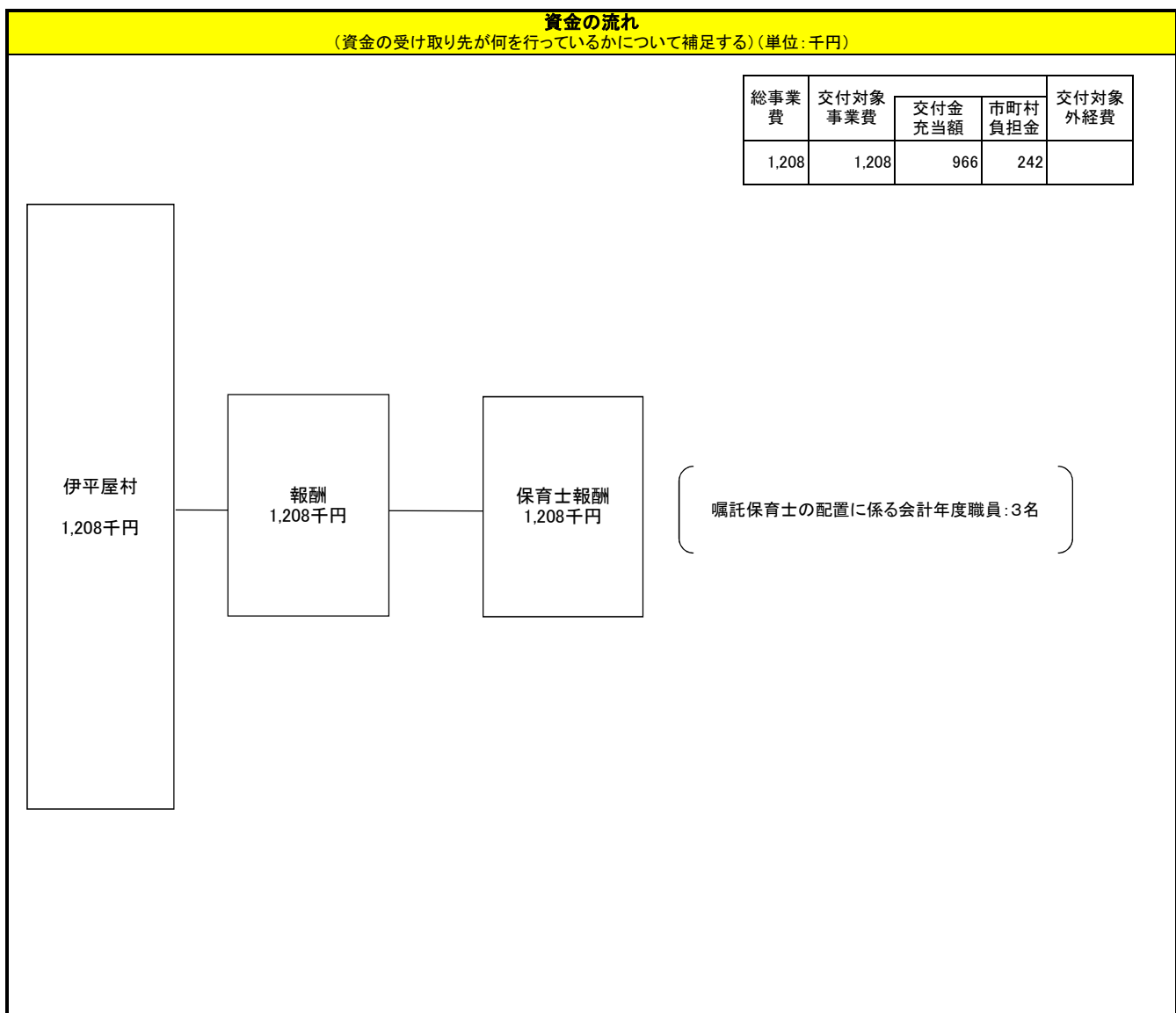
実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()

Table with 7 columns: 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース), H30年度, R1年度, R2年度, R3年度, R4年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%)(B/A), and 予算の状況の説明 (当初、嘱託保育士(フルタイム)1名を予定していたが、時短勤務に変更したため人件費が減額となった。)

Table with 5 columns: R4活動目標(指標), 達成状況 (R1年度, R2年度, R3年度, R4年度). Rows include 嘱託保育士の配置 1名 (目標: (1名), 実績: 1名, 1名, 3名) and 達成状況説明 (4月途中(4/18)からの開始になったが、幼稚園へ嘱託保育士を1名以上配置し、目標を概ね達成できた。)

Table with 7 columns: R4成果目標(指標), 基準値(年度), R2年度, R3年度, R4年度, 目標値(年度). Rows include 対象となる園児の保護者へのアンケートで、預かり保育により子育て・就労がしやすい負担が軽減された(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。 (目標: (), 実績: 100%, 100%), and 進捗状況説明 (11名(幼稚園在籍者数11名中)の預かり保育対象園児に対して、預かり保育を実施した。アンケートにて、「預かり保育があることで子育て・就労がしやすい」「負担が軽減されたと感じる」との質問に「そう思う」と回答した保護者は、100%であった。そのことから、成果目標を達成できたと考える。)

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>嘱託保育士1名を募集したが、慢性的な保育士不足から当初より配置ができなかったため、募集内容等に課題があった。</p>	<p>時短勤務に変更する等勤務条件を見直し、働きやすい環境を構築する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>長期休暇等に備えて2名の保育士を配置し、保護者が安心して子どもを預けることができるよう環境を整え、保護者が安心してフルタイムの職に就けるよう育児の負担軽減の支援する。</p>		



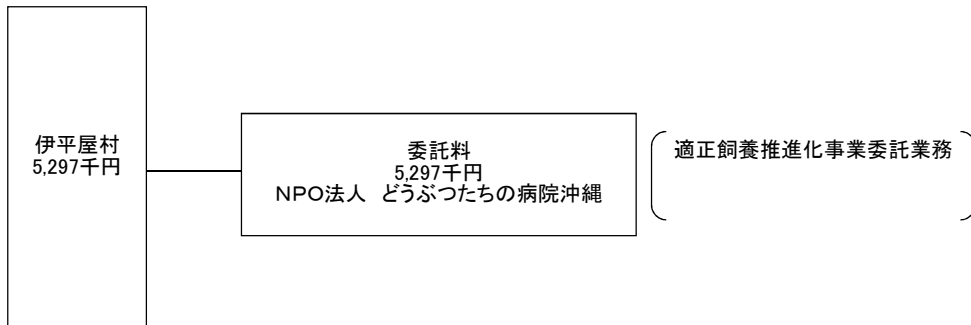
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公募を行い、保育士資格をもつ者より選定したことから妥当であった。 ○支出費目は保育士報酬のみであり、事業内容に見合った適正な規模である。 ○事業目的に即した人件費の支出であることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	適正飼養推進化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-(オ)	
担当部署名	住民課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	保健衛生環境の向上		
事業内容	本村の住みよい住環境の提供を図るため、猫の適正飼養に向けた普及・啓発活動の取組を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,500				
			5,500				
			0				
			5,500				
	B. 執行済額		5,297				
	うち交付金充当額		4,237				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		96.3%				
予算の状況の説明		不用額203千円については委託の契約額残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	・説明会等の開催 2回/年		目標	2回/年			
			実績	3回			
			目標				
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に予定していた説明会は延期となったが、現状把握調査やアンケート調査に基づいた村内の猫の実情を12月に住民向けの説明会(2回)・並びに議員説明会(1回)開催し、村民・飼い主、議員向け説明を行った。 ・条例制定に向け専門家(獣医・大学教授)を招聘し、村内で計6回の検討会を開催した。 ・普及啓発活動も兼ねて先行して猫の避妊・去勢手術を先行実施し、有用性もPRできた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(4年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(9年度)
	・説明会等の開催 2回/年		目標	2回			
			実績	3回			
	・猫飼養条例制定検討委員会開催		目標	4回			
			実績	3回			
	・適正飼養に関する普及啓発活動(マイクロチップ装着・避妊去勢手術・室内飼養の励行・屋外猫への給餌者への指導等)		目標	50頭			
			実績	88頭			
			目標				
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に説明会を開催し、避妊去勢手術の勧め・室内飼育の勧め等を住民に説明した。 ・飼養条例制定検討委員会を開催し、子どもの情操教育、愛猫家にも配慮した条例制定に向け委員会にて検討した。 ・説明会や個別指導により村内の多頭飼育者から申し出があり、猫の避妊去勢手術を実施した。(約30頭中19頭)その後、多頭飼育者の生活環境が改善され、地域への悪臭・糞尿による苦情も減少した。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(村内の取り巻く状況) ・条例制定に向け、各区長を委員として招聘し、同委員会委員である専門家(獣医・法学専門家)意見を反映した条例骨子を作成。区長より各区にスライドさせることで村独自の条例作成に向け建設的な協議がなされた。 ・本事業実施を機に避妊去勢の重要性、室内飼育の重要性、多頭飼育による住民被害を説明会や啓蒙活動で一貫して伝えることで、愛猫家にも寄り添った事業遂行を実施。それにより多頭飼育飼い主の周辺住宅トラブルが減少し、結果、その他の集落にも宣伝効果が発現し、猫飼養に対し多くの村民が関心を持つようになった。	(村内の取り巻く状況) ・次年度に於いては、検討委員会で協議を継続し、条例制定を行う予定であるが、野良猫や野猫に餌やりを行っている村民に向けての先行的アプローチが不足していた。
	今後の取り組み方針	
(村内の取り巻く状況) ・条例制定に向け各区民と意見交換を行う「行政懇談会」などを活用しながら、猫飼養条例制定に向け住民理解を深める。 ・今後は検討委員会でも議題に挙がったが、条例の推進員・餌やりを行う管理人を設置し、村民全員で猫と共存可能な社会を構築する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
5,297	5,297	4,237	1,060	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は県内市町村に於いて同様の実務実績のある業者と委託契約を締結しており、事業適正執行の観点から受託業者に決定している。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	自動車航送コスト負担軽減事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(8)-ア	
担当部課名	企画財政課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	人流・物流のコスト低減と情報 通信基盤の強化	
事業内容	企画財政課 本村と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減し定住環境の改善を図るため、その一部を支援する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	63,562	67,064	67,041	67,041	67,041
		(b) 予算現額	67,993	70,869	55,806	67,041	67,041
		(c) 増減額 (b-a)	4,431	3,805	▲ 11,235	0	0
		(d) 繰越額	0			0	0
	A. 計 (b+d)		67,993	70,869	55,806	67,041	67,041
	B. 執行済額		67,993	70,027	55,806	63,474	72,231
	うち交付金充当額		53,394	56,021	44,645	50,779	57,785
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100%	99%	100%	95%	108%
予算の状況の説明		前年度と同額程度の利用を想定し当初予算を計上したが、新型コロナウイルス感染症の緩和もあり徐々に利用者数の増加があり、実績が上回ったもの。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	自動車航送運賃の低減 R4年度:年間6,300台 (H26年度:4,570台)		目標 (自動車航送 運賃の低減 年間6,300台)	目標 (自動車航送 運賃の低減 年間6,300台)	目標 (自動車航送 運賃の低減 年間6,300台)	目標 (自動車航送 運賃の低減 年間6,300台)	
			実績 6,608台	実績 5,176台	実績 5,856台	実績 6,697台	
達成状況説明		新型コロナウイルス感染症の緩和後、徐々に利用者数の増加もあり、年間目標台数を達成(106.3%)することができた。村民の経済活動の活性化も図られ、沖縄本島との移動しやすい環境構築により、村民生活に欠かせない自動車航送運賃コストの低減による定住環境の改善が図られていると考える。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (4年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	
			実績	95%	98%	95%	
			目標				
進捗状況説明		島民へのアンケートを実施した結果、95%の人が沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたと感じると回答している。このことから当事業において、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等での沖縄本島までの移動手段が確保され、村民の経済的負担が軽減されたことにより、定住環境の改善が図られたと考える。					

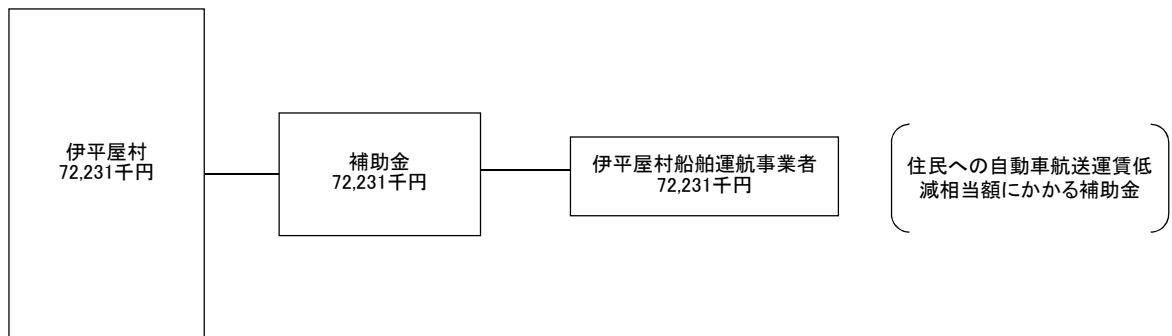
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の緩和により、利用者の増加もあり、キャンセル待ちの対応が発生している。 台風以外の要因で、欠航になる日は事前に防災無線・村ホームページを活用し周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運天港、チケット売り場、フェリーが事前予約状況を確認の上、連携を図り事前予約の30分前にはキャンセル待ちの方の車両乗船手続きを行うなど効率的な体制を引き続き構築する。 新しい村ホームページの活用により、キャンセル待ちの徹底周知や防災無線等により村民への理解を浸透させるため引き続き呼びかけを行う。

今後の取り組み方針

・車両予約確認体制の継続においては、運天港、村チケット売り場、フェリーと事前の車両予約状況を把握・確認し当日の最大積載内容を確認しつつ、チケット購入に係る運用体制を強化する。
 ・当日の悪天候や欠航が発生する場合などは、新しい村ホームページや防災無線を活用し、出発の1時間半前には出港の可否を判断するなど、村観光交通課、フェリー、運天港の3方で連携を密にし取り組んでいく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
72,231	72,231	57,785	14,446	0



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先については公益性があり妥当である。 ○予算規模については、概ね妥当である。 ○受益者負担については沖縄離住民等交通コスト負担軽減事業を参考に設定し、妥当であるとする。 ○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

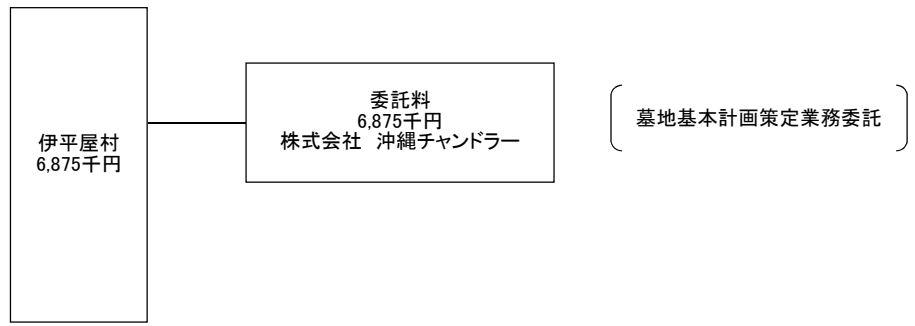
市町村名	伊平屋村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	公営墓地等整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-(イ) 沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり		
担当部課名	住民課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9-(2)		
事業内容	地域住民や移住・定住者等の起業支援策として、多用途に使用可能な特産品の生産、製造拠点を整備し、産業の育成による雇用の場を創出する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和8年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	6,996				
		(b)予算現額	6,996				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		6,996				
	B. 執行済額		6,875				
	うち交付金充当額		5,500				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.3%				
予算の状況の説明		不用額121千円については委託の契約額残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	・墓地基本計画の策定完了	目標	計画策定				
		実績	計画終了				
		目標					
		実績					
達成状況説明	・村内各集落に於いて集計したアンケート結果を基に墓地基本計画を策定した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (4年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	・墓地基本計画の策定完了	目標		計画策定			
		実績		計画終了			
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	・墓地に関する各種アンケート調査並びに各区区長への説明会を通じ各区へのフィードバックを行いながら基本計画を策定した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(各集落のニーズ調査・計画) ・本事業をきっかけに今後、墓地建築の際には集団墓地化の防止、並びに島外出身者が移住を決意した際には、斡旋が可能な状況にすることで狭小な面積である本村に於いては、用地の確保がスムーズに行われるよう配慮する事が可能となる。 ・集団墓地化に賛同し、墓の移築を検討する対象者や村内に墓がないものの村内での建築を希望している対象者に対しても「納骨堂」を設置することで、親戚間の調整や建築費の捻出等時間を要する場合でも対応可能な計画となった。	(各集落のニーズ調査・計画) ・コロナ禍に於いてアンケート調査(回収率)に苦慮した部分があることから、各区区長への説明会では掘り起こすことが叶わなかった意見が未だ存在する可能性がある。

今後の取り組み方針
(各集落のニーズ調査・計画) ・次年度は基本計画の概要版を基に各区で開催される「行政懇談会」等に於いて計画の内容を説明し、住民に理解を求めていく。並行して、区長会では吸い上げることが叶わなかった内容も実施計画に盛り込むことで村民が目指す村内の「お墓事情」に寄り添った公営墓地整備計画の策定を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,875	6,875	5,500	1,375	0



資金の流 れの流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は県内で同様の実務実績のある業者5者より見積もりを徴し(1者辞退)、最低価格業者と委託契約を締結していることから妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	